

# 国土学事始め



大石久和

国土学アナリスト

## 「驚き」を失った国

変に聞こえるかも知れませ  
んが、「驚き」は人の能力や、  
政府の政策、企業の商品開発  
など、社会を起動させる原点  
だと考えています。ノーベル  
賞級の研究も、最初の「なぜ

変に聞こえるかも知れませ  
ると言ってもよく、「夕陽は何  
で赤いのだろう」「夕陽は何  
で大きく見えるのだろう」と  
の驚きは、研究への発射装置  
と言つて良いもので、これの  
繰り返しで、子供は好奇心と

たとえば、この20年で日本  
人の家計所得は660万円程  
度から約560万円へと、1  
00万円も減少してしまいま  
した。これを政治家などに話  
しても「えっ、そんなことに  
なっていたのか」と反応する  
人がきわめて少ないのです。

主権者のほとんどは数字的に  
は理解していません。  
デフレ経済が続いているに  
もかかわらず、歳出削減と消  
費増税というデフレ促進策を  
繰り返ししてきた財政運営の間  
違いのツケが、成長しない経  
済、伸びない税収、貧困化す  
る国民、日本の世界における  
経済的地位の転落と言えるほ  
どの低下を生んでしまいまし  
た。

こんなことが起こるのだろ  
う」という驚きと、その驚き  
に対する気付き力とでもいう  
ものが原点となつていること  
が多くあります。だから驚き  
力は才能の一種なのです。

知識力を獲得していくので  
す。  
ところが、最近の日本人は  
驚かないのです。「そんなも  
のだよ」と訳知り顔で納得し  
ているのです。これでは、改  
善も進歩も創造も何も生まれ

国民を豊かにするためにこ  
そ政治はあり、そのために経  
世済民の経済学はあり、この  
事実を主権者に届けるために  
メディアはあるのに、これら  
がさっぱり機能していないた  
めに、こうした重大な事実を

「そんなに貧困化したのか」  
という驚きこそが、令和の財  
政・経済運営を好転させるの  
です。

子供成長力の原点も驚き力

善も進歩も創造も何も生まれ

ために、こうした重大な事実を

です。